

東京都立神経病院でてんかんの治療・診断目的に  
頭蓋内電極を留置した患者さん・ご家族へ  
研究へのご協力をお願い

東京都立神経病院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、過去に行った研究の解析データを二次利用させていただくものであり、ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありません。また、研究のために、新たな検査などは行いません。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者に当たると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究にデータを使って欲しくないとのご意志がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。お申し出による不利益は一切ありません。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】

2021 年 8 月 6 日～2025 年 3 月 31 日の間に東京都立神経病院で、てんかんの治療・診断目的に、頭蓋内電極を留置した方

【研究課題名】

言語と記号の要素的連結を担うヒト脳回路ダイナミクス：脱抑制仮説の多元的検証

【研究責任者】 東京都立神経病院 脳神経外科 医長 松尾 健

【研究の意義】

言語はヒトにとって最も重要なコミュニケーション手段の一つであり、言語障害がヒトの生活に与える影響は甚大であると言えます。言語障害の治療を考える上で、ヒトの脳の中で言語がどのように処理されるか知ることが重要です。これまでの研究では、単語や文が処理されるときに脳のどの部位が関与しているか、といった大まかなことまではわかっていました。しかし、これまでの研究方法では、秒単位で変化する脳の機能を捉えることは不可能でした。

我々が開発した新しい MRI 撮像法により、秒単位での脳活動の変化を捉えることが可能になりました。この方法を用いて、字を読んでいる際の脳活動を測定することにより、ヒト脳内での言語処理について、これまでより詳細な知見が得られる可能性があります。

そこで本研究では、頭蓋内に電極を留置した方を対象に、文字を読む課題をおこなう際に測定した脳波データを解析し、MRI の結果と比較をします。これらの方法により、従来の方法ではわからなかった、言語処理中の脳活動の変化を明らかにすることが、本研究の目的です。

### 【利用する情報】

文字を読む課題を行った際の脳波データ

### 【研究の実施体制】

この研究は、他の施設と共同で実施されます。研究体制は以下のとおりです。

研究代表者 新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 教授 島田 斉

研究責任者 ・高知工科大学総合研究所 脳コミュニケーション研究センター  
教授 中原 潔

・東京都立神経病院 脳神経外科 医長 松尾 健

・理化学研究所 理化学研究所生命機能科学研究センター

脳コネクトムクスイメーシング研究チーム

チームリーダー 氏名 林 拓也

本研究で収集した情報を、下記の施設で保管し、解析を行います。提供する際には、あなたを特定できる情報は記載せず、個人が特定できないように配慮します。

施設名及び管理責任者

新潟大学 脳研究所 統合脳機能研究センター 助教 畠山 公大

連絡先 025-227-0683

提供方法：データは個人情報は一切含まれない形にし、パスワード付きハードディスクドライブ（HDD）、もしくは、パスワード付き大容量データ転送サービスを介して新潟大学へ移動します。

### 【研究期間】 研究許可日～2030 年 3 月 31 日

【個人情報の取り扱い】お名前、住所などの個人を特定する情報については厳重に管理を行い、学会や学術雑誌で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問い合わせ先】新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 教授 島田 斉

電話 025-227-0683